

平成26年（ネ）第126号 大飯原発3, 4号機運転差止請求控訴事件

1 審原告 松田正 外184名

1 審被告 関西電力株式会社

証 拠 説 明 書

(乙186の1~209号証)

平成29年3月31日

名古屋高等裁判所金沢支部第1部C1係 御中

1 審被告訴訟代理人 弁護士 小 原 正 敏



弁護士 田 中 宏



弁護士 西 出 智 幸



弁護士 神 原 浩



弁護士 原 井 大 介



弁護士 森 拓 也



弁護士 辰 田 淳



弁護士 畑 井 雅 史



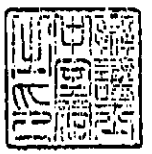
弁護士 山 内 喜 明



弁護士 谷 健 太 郎



弁護士 中 室 祐



号証	標 目 (原本・写しの別)		作成年月日	作成者	立 証 趣 旨
乙186 の1	Applicability of source scaling relations for crustal earthquakes to estimation of the ground motions of the 2016 Kumamoto earthquake	写し	H29.1.3	入倉孝次郎他	平成28年(2016年)熊本地震(以下、「熊本地震」という)は日本の内陸地殻内地震のスケーリング則が適用できる地震であること等
乙186 の2	上記の和訳	写し	H29.3	1 審被告	
乙187 の1	Scaling Relationship between the Number of Aftershocks and the Size of the Main Shock	写し	H2	山中佳子 島崎邦彦	島崎氏が入倉・三宅式との比較に用いた, Yamanaka&Shimazaki (1990) の式 (甲297, (2) $M_0=3.80 \times 10^{10} \times L^2$ の変形前の式) の内容等
乙187 の2	上記の和訳	写し	H29.3	1 審被告	
乙188 の1	SMALL AND LARGE EARTHQUAKES : THE EFFECTS OF THE THICKNESS OF SEISMOGENIC LAYER AND THE FREE SURFACE	写し	S61	島崎邦彦	Yamanaka&Shimazaki (1990) の式のデータセットとして用いられた断層パラメータの内容等
乙188 の2	上記の和訳	写し	H29.3	1 審被告	

乙189	<p>島崎邦彦氏の日本地球惑星科学連合2016年大会(2016/05/25)での発表「過小な日本海『最大クラス』津波断層モデルとその原因」へのコメント</p> <p>http://www.kojiro-irikura.jp/pdf/comment_final-revision3.pdf</p>	写し	(H29.3ウェブサイトから取得)	入倉孝次郎	断層面積と地震モーメントとの関係を示した入倉・三宅式を用いて「断層モデルを用いた手法に基づく地震動評価」を行うと地震動評価結果が過小になるとの島崎氏の雑誌記事(甲331)等に対する、入倉孝次郎氏の反論の内容
乙190	<p>岩波科学 2016年7月号の島崎邦彦氏の「最大クラスではない日本海『最大クラス』の津波一過ちを糺さないままでは『想定外』の災害が再生産される」へのコメント</p> <p>http://www.kojiro-irikura.jp/pdf/iwanamikagaku-comment-Jul13-2016.pdf</p>	写し	(H29.3ウェブサイトから取得)	入倉孝次郎	<p>なお、乙189号証及び乙190号証は、入倉孝次郎地震動研究所ウェブサイト (http://www.kojiro-irikura.jp/) より入手したものに、1審被告にて頁番号を記入したものである。</p>
乙191	<p>島崎邦彦前原子力規制委員会委員長代理との面会(平成28年6月16日)</p>	写し	H29.3	1審被告	<p>平成28年6月16日に島崎氏が、大飯発電所の基準地震動に関して再計算の必要があるなどとして、原子力規制委員会の田中俊一委員長と面会した際のやり取り</p> <p>なお、乙191号証は、原子力規制委員会が (https://www.youtube.com/watch?v=zFxKpK1CQ3o) に掲載した面会の際の動画から1審被告が書き起こしたものである。</p>

乙192	布田川・日奈久断層帯の評価	写し	H14.5.8	地震調査研究推進本部 地震調査委員会	平成14年5月8日時点における、布田川・日奈久断層帯に対する地震調査研究推進本部の評価
乙193	九州地域の活断層の長期評価（第一版）	写し	H25.2.1	地震調査研究推進本部 地震調査委員会	平成25年2月1日時点における、九州地域の活断層に対する地震調査研究推進本部の評価
乙194	熊本県阿蘇カルデラ西方地域の活断層群とその意義	写し	S59	渡辺一徳	阿蘇カルデラ西部においては、熊本地震の発生以前から活断層の存在の可能性が指摘されていたこと
乙195	阿蘇カルデラ内で見いだされた落差1mの新鮮な活断層と最近の地震活動	写し	H13.4	須藤靖明 池辺伸一郎	
乙196	2016年熊本地震の地質学的背景と地震後の断層調査報告	写し	H28.7.16	一般社団法人 日本地質学会 大橋聖和 向吉秀樹	熊本地震の発生地域の断層に関する既往の研究結果等 なお、乙196号証の各頁下端に記載の頁番号は、1番被告が記入したものである。

乙197	第 211 回地震予知連絡会記者会見資料 (抜粋)	写し	H28. 5. 18	国土地理院	<p>国土地理院が、熊本地震について、不均質なすべり分布を仮定した震源断層モデルを公表していること及びその内容 (37頁, 「平成28年熊本地震の滑り分布モデル (暫定)」) 等</p> <p>なお、乙197号証の44頁と甲444号証 (熊本地震を対象とした島崎氏の検討における、地表地震断層を用いたモデルの諸元) は同じものである。</p>
乙198	平成 28 年 (2016 年) 熊本地震の評価	写し	H28. 5. 13	地震調査研究推進本部 地震調査委員会	<p>熊本地震とは、平成28年4月14日に発生したM6.5の地震 (以下, 「前震」という) 以降の一連の地震活動を指し、前震の2日後の同月16日にM7.3の地震 (以下, 「本震」という) が発生したこと、</p> <p>前震は日奈久断層帯の高野-白旗区間の活動によるもの、本震は布田川断層帯の布田川区間の活動によるものと評価されていること、等</p> <p>なお、乙198号証は甲443号証と同じであるが、各頁下端に1審被告にて頁番号を記入したものである。また、乙165号証は乙198号証の抜粋である。</p>

乙199	平成 28 年 4 月 16 日 熊本県熊本地方の地震の評価	写し	H28. 4. 17	地震調査研究推進本部 地震調査委員会	平成 28 年 4 月 16 日の熊本地震の本震に対する地震調査研究推進本部の評価 なお、乙 199 号証の各頁下端に記載の頁番号は、1 番被告が記入したものである。
乙200	平成 28 年 4 月 16 日の熊本県熊本地方の地震 (Mj7.3) 震源断層モデル (暫定)	写し	H28. 4. 16	国土地理院	熊本地震を対象とした島崎氏の検討における、「暫定解 1」にあたると思われる震源断層モデルの諸元 なお、この乙200号証は、国土地理院ウェブサイト「電子基準点が捉えた平成28年(2016年)熊本地震に伴う地殻変動について」の、「4月16日01時25分に熊本県熊本地方で発生した地震に伴う地殻変動を精査(2016年4月16日)」に、別紙4として掲載されているものである。 http://www.gsi.go.jp/chiban kansi/chikakukansi_kumamoto20160414.html
乙201	観測記録により推定された震源断層モデルに見られる特徴	写し	H28. 12. 2	引間和人 三宅弘恵	熊本地震に関して推定された、複数の震源断層モデルに見られる特徴等

乙202 の1	原子力規制庁ウェブサイト「平成28年熊本地震における九州電力川内原子力発電所への影響と見解について(1)」 https://www.nsr.go.jp/news_only/20160428_01.html	写し	H28. 4. 28	原子力規制委員会	九州電力株式会社が、川内原子力発電所の基準地震動の評価において、布田川・日奈久断層帯を震源として考慮する活断層として評価した際の評価内容 なお、乙202号証の2は原子力規制委員会ウェブサイト「平成28年熊本地震における九州電力川内原子力発電所への影響と見解について(1)」(乙202の1)に、参考資料として掲載されているものである。
乙202 の2	平成28年熊本地震における九州電力川内原子力発電所への影響と見解について	写し	H28. 4. 28	原子力規制庁	
乙203	近地強震記録を用いた平成28年(2016年)熊本地震(4月16日1時25分、M7.3)の震源インバージョン解析(2016/5/12改訂版)	写し	H28. 5. 12	久保久彦 鈴木亘 青井真 関口春子	熊本地震の本震に関して、強震観測記録を用いて行ったインバージョン解析の内容
乙204	「平成28年(2016年)熊本地震」の地震活動のうち本震(M _{JMA} 7.3)の震源過程(改訂版)	写し	H28. 5. 13	京都大学防災研究所 地震災害研究部門	同上
乙205	日本地震学会2016年度秋季大会予稿集「強震記録から求めた2016年熊本地震(M _j 7.3)の運動学的震源モデル(その2)」	写し	H28. 10	吉田邦一 宮腰研 染井一寛	同上

乙206	日本地震学会 2016 年度秋季大会予稿集「経験的グリーン関数法による 2016 年熊本地震の本震および前震の震源モデル」	写し	H28. 10	芝良昭	同上
乙207	日本地震学会 2016 年度秋季大会予稿集「強震波形を用いた 2016 年熊本地震の震源過程解析～M6 以上の 3 地震の解析結果～」	写し	H28. 10	引間和人	同上
乙208	地震波形を用いた気象庁の震源過程解析－解析方法と断層すべり分布のスケーリング則－	写し	H26. 10	岩切一宏 川添安之 長谷川嘉臣	震源過程解析の方法や適用事例等
乙209	日本の地震断層パラメータ・ハンドブック (抜粋)	写し	H1. 3. 25	佐藤良輔 (編著) 阿部勝征 岡田義光 島崎邦彦 鈴木保典	澁尾地震, 北伊豆地震等に関する既往の研究における断層パラメータの設定内容等